二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会　第２回

2022・9・21

一体型小中一貫教育校設置研究会

どんな子どもが育つ二宮町にしていくのか
どんな教育をする二宮の学校を作るのか

新しい学校づくり

↑

町民の願い
教員の知見
町民の知見

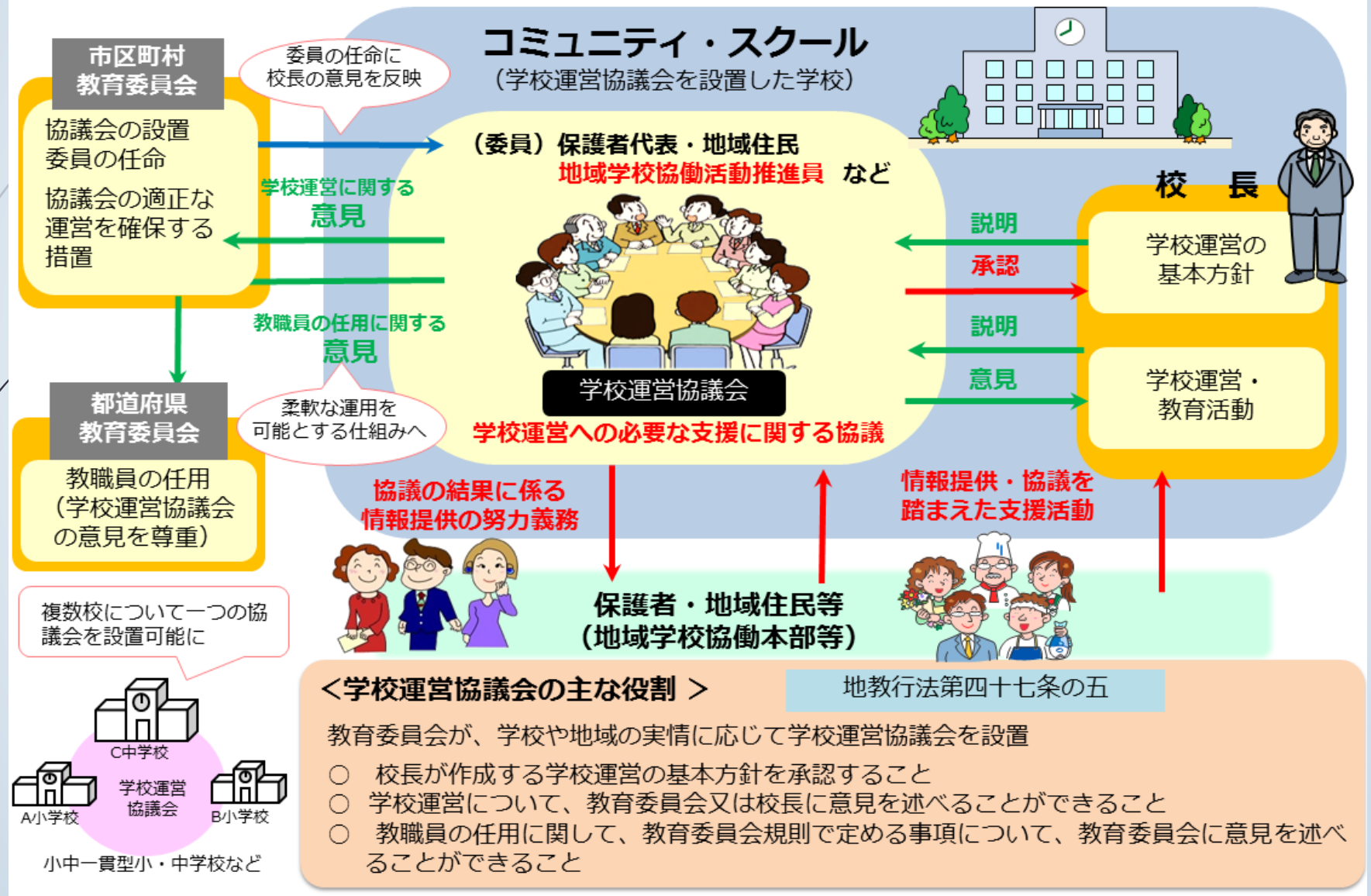
学校運営協議会制度

法律（地教行法第47条の5）

校長や教育委員会に対する権限や役割が法令に規定されており、保護者や地域住民の意見が学校運営に直接反映されることを制度的に担保し、保護者や地域住民と学校・教育委員会とが、学校の教育目標の設定や達成に協働して責任を果たす仕組み（文部科学省）

二宮の5校すべてに学校運営協議会制度が敷かれている。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組み



施設一体型小中一貫教育校設置研究会の流れ

資料２

二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会2年間の予定（案）

※研究会設置要項における協議内容に基づく

資料２　参照

本日の協議１

二宮町のめざす子ども像を設定する

↓

・９年の義務教育期間に身につけさせたい力

・義務教育終了時の姿としての子ども像

推進計画の「目指す子ども像」

推進計画　P.36

・自分の心と身体にまっすぐに向き合い、自分の良さを発揮し、自己実現できる子ども
・多様な価値観を大切にし、互いの良さを引き出しあい、主体的に他者と協働できる子ども
・二宮に愛着と誇りを持ち、社会に貢献できる子ども

二宮町小中一貫教育グランドデザインの教育目標

推進計画　P.42

「認め合い、高め合う、二宮の子」

「９年間の義務教育で育てる子ども像」の背景

①町民の願い　　資料３（こうりゅう塾で出された意見）

②未来予測と国際社会の動向　　参考　小松郁夫先生講演

③文部科学省の目標

④教育機関の願い　　二宮町小中一貫教育推進計画　P.36
「目指す子ども像」「グランドデザイン教育目標」P.42

⑤子どもたちの現状

社会の未来

小松郁夫　京都大学特任教授

〇少子高齢化はさらに急激に進む

〇DX（デジタルトランスフォーメーション）
　は予想以上に進化する

〇国や自治体の財政基盤は衰弱する

〇教師、学校の「教育力」はあまり向上しない

2030年の社会と子どもたちの未来（予測）

文部科学省・論点整理より

- 少子高齢化が更に進行
- 生産年齢人口は総人口の約58%にまで減少
- 世界のGDPに占める日本の割合は、現在の5.8%から3.4%にまで低下する
- 日本の国際的な存在感の低下
- グローバル化や情報化が進展
- 多様な主体が速いスピードで相互に影響し合い、一つの出来事が広範囲かつ複雑に伝播し、先を見通すことがますます難しくなってきている。
- 子供たちが将来就くことになる職業は技術革新等の影響により大きく変化する
- 子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就く
- 今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い

グローバル化、情報化、技術革新等といった変化は、どのようなキャリアを選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものである

次代を切り拓 く子供たちに求められる資質・能力

(文部科学省)

子供たちの成長を支える教育の在り方も，新たな事態に直面している

〇読解力，教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力，対話や協働を通じて知 識やアイディアを共有し新しい解や納得解を生み出す力
〇体力の向上，健康の確保
〇自然環境や資源の有限性，貧困，イノベーションなど，地域や地球規模の諸課題について，子供一人一人が自らの課題として考え，持続可能な社会づ くりにつなげていく力
〇自ら主体的に目標を設定し，振り返りながら，責任あ る行動がとれる力

学習指導要領の着実な実施が重要

OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030

子どもが教師の指導や指示をそのまま受け入れるのではなく、未知の環境を自力で歩み、責任を果たしながら進むべき方向を見出す必要性から「ラーニング・コンパス」と名づけられた。

社会に貢献し、より良い未来を創るために必要な力として「新たな価値を創造する力」、「責任ある行動をとる力」、「対立やジレンマを克服する力」をあげている。

それには「知識」、「スキル」、「適切な態度・価値」を身につけること、「見通し」、「行動」、「振り返り」を繰り返すことが必要であるとされ、そのすべてのサイクルを「ラーニング・コンパス」という図に表している。（2022.3）

2つの学力観　（小松先生講演より）

ＯＥＣＤ

2018年２月、2030年の教育のあり方を展望する「Education 2030」の概要をまとめた。

＊　**「新たな価値を創造する力」**

（　知識・技能の創造　）

＊　**「対立やジレンマを克服する力」**

（かかわりの中で発揮される思考力・判断力・表現力　）

＊　**「責任ある行動をとる力」**

（　倫理性と自己調整の力を発揮した、学びに向かう力・人間性　）

の３つの力の育成

↓

「変革を起こす力のあるコンピテンシー」

と位置付け

ユネスコ

＊　新しい学びの構造（ユネスコの提案）

21世紀教育国際委員会報告書（1996年）

『学習：秘められた宝』

委員会の掲げた教育方針（学習の4本柱）

- **知ることを学ぶ　learning to know**
- **なすことを学ぶ　learning to do**
- **共に生きることを学ぶ**
  learning to live together
- **人として生きることを学ぶ**
  l earning to be

中学生・高校生の現状

- 二宮町　学力学習状況調査で全国平均を上回るかほぼ同じ
- 二宮町　ほぼ１００％が進学して高等学校の課程に進む
- 全国的に　高校入試（公立）で１０点未満・・１割程度
- 公立高校は定員に満たずほぼ全入の時代
- 九九、正負、方程式　理解していないまま高校生に
- 高校は学び直し（復習）をカリキュラムに入れないと高校教育が進められない・・A高校は1学年の半分を学び直しに充てている・・・学びなおせば理解する
- 高校の教育課程は7割程度しか実施できない・・・

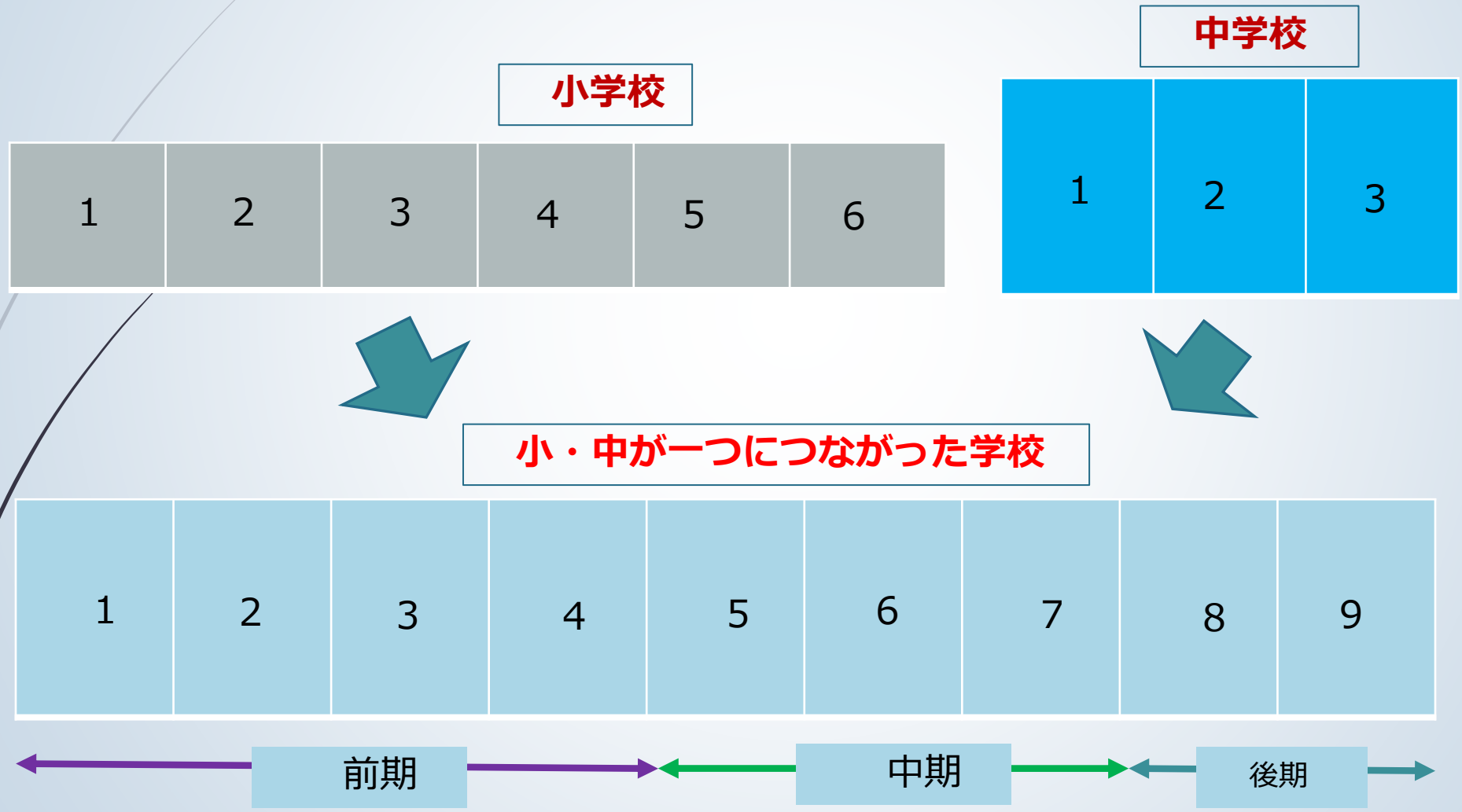
  神奈川県立高校のほぼ半数がこうした状況
- 大学も学び直しの時間を設定

協議１の進め方

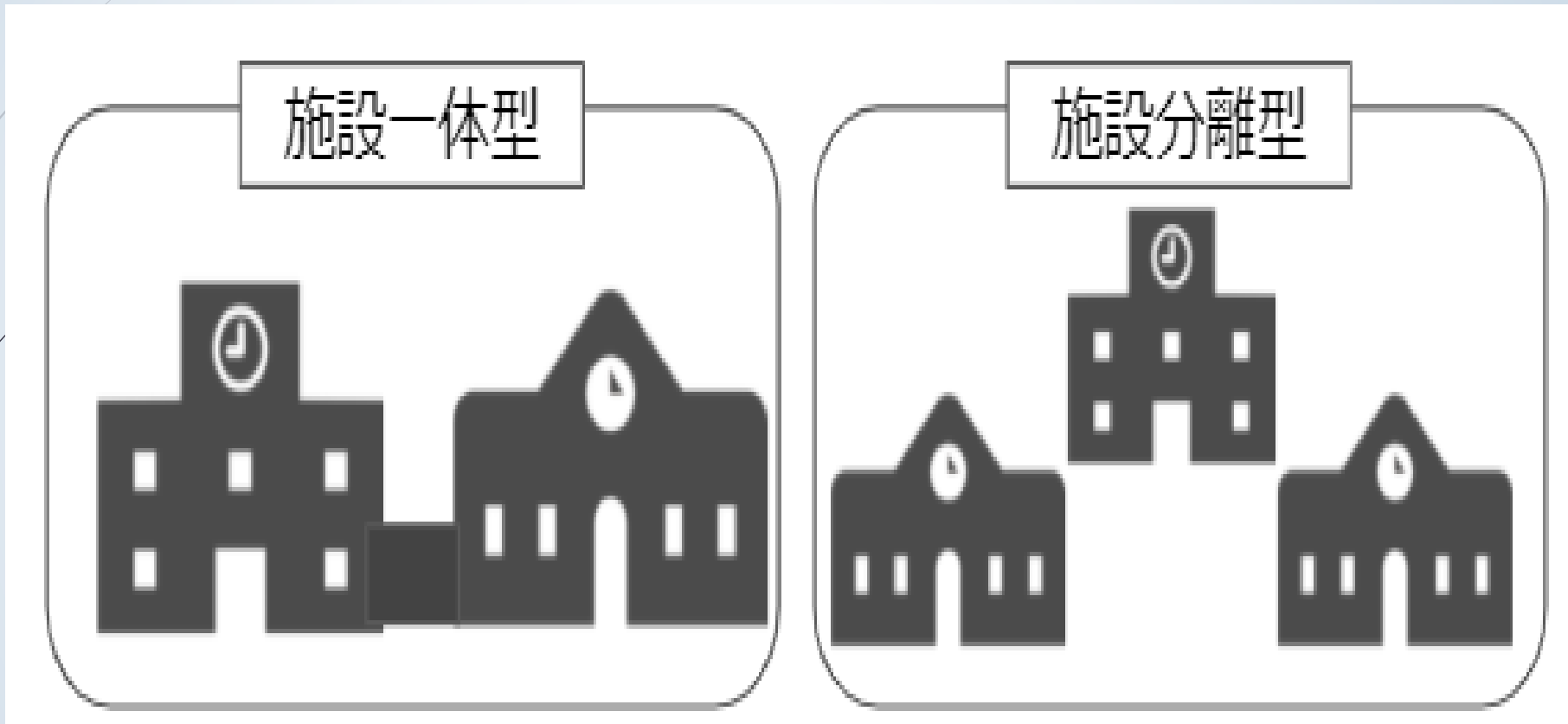
①二宮の子どもたちの課題は？

②９年間の義務教育で育てる子ども像

９年間連続した教育を行う学校



学校施設の形態



現時点までの取り組みと今後の方向性

- 平成28(2016)年　小中一貫教育の研究を始める
  目的　より良い学校環境、より質の高い学校教育の提供
- 令和元(2019)年7月～令和2(2020)年2月
  町民対象の説明会を各地区で開催
- ワーキンググループで9年間の一貫して教育内容の検討を継続して実施。小中の乗り入れ事業等を実施

- 令和5(2023)年より分離型小中一貫教育校「にのみや学園(仮称)」を開設。学園内に2つのグループ。
  二宮小・二宮中グループ
  一色小・山西小・二宮西中グループ

- 将来的には施設一体型小中一貫教育校を開設

小中一貫教育推進の意義①

教育システムを柔軟にする

↓

多様な子どもたち一人一人が学びやすい
学びが充実するカリキュラム編成
不連続によるつまずきの解消

↓

義務教育終了までに必要な力を育て、めざす
子ども像に近づける

小中一貫教育推進の意義②

異年齢集団が豊かな人間性を育てる
数値では測れない非認知能力が育つ

↓

教えるより、見て感じて学ぶ

中学生の姿を見てあこがれ、小学生の姿を見て優しさと自尊感情、意欲が育つ

小中一貫教育の成果と課題

資料　４　参照

二宮の魅力ある学校づくりを

〇目指す子ども像を実現する二宮の義務教育

〇未来を生きる子どもたちに必要な力が確実に身に付く二宮の義務教育

〇二宮の学校に子どもを通わせたい、二宮で子育てしたいと思えるように

二宮町の財産は人材